

意見交換 「地域産業振興構想」に係る施策に対する評価・検証

本テーマに関して、萩市がこれまで実施した事業は別紙に掲載

① 基本方針Ⅳ 多様な働き方を応援し、社会でイキイキと活躍できる環境づくりを推進する

【子育て支援について】

- 小規模事業所でも、男性の社員で子供に何かあったら、休ませるようにする、向こうから希望があれば休みがとれるような体制をしています。
- ある事業所でも女性の働き手が増え、育児のために休暇制度も活用されてやってらっしゃるので、当然これは良いことだと思っています。
- 萩市のファミリー・サポート・センターの運営事業は、1つのビジネスモデルとして、すごく面白いなと思います。ビジネスモデルとして良いからリピーターが増えて、どんどん利用回数が増えているのかなと感じます。
- 様々な子育て支援の申請ですが、簡単にスマホなどでやりとりできるようであれば、利便性向上につながるのかなと感じました。

⇒事務局回答

延長保育の申請など、スマホからアクセスいただけるような形には現在はなっておりません。24時間保育や病児保育につきましては、施設側も運営の関係上、お子さんの病状や状況を直接お話した方がよいこともあります。ただ保護者の方も、共働きなどでお忙しい中で、申し込みの手間を省きながら、どのように必要な情報を施設側に届けるかということについて、今後研究してまいります。

- 日頃病児保育を利用する上で、使いにくさを感じることは特にございません。システム化すれば良いなと思うこともありますが、子供の症状、病気の症状に合わせて、システムの中の文面だけだと伝えられないものとかもあるのかなというのは、実際に預ける身として感じる部分はございます。ただ、預ける前の手続きで、書き物が多いなという部分もあるので、そういうところが少し改善されると、さらに使いやすさに繋がるのかなと思います。
- 24時間保育はどういった方が利用されるのでしょうか。

⇒事務局回答

現在利用されているのは、夜間の飲食業に従事される方です。その他夜間勤務がある看護師や介護士の方の利用も想定しています。

【就業促進支援・テレワークについて】

- 就業促進支援事業については、継続的にやらないと効果がすぐに出るのは難しいのかなと思います。平成30年から始められて、萩ごとnet.の運用も令和5年から構築されていますし、取り組みとしてはいいと思います。
- 就業促進支援事業ですが、こちらの合同企業説明会に関してですが、これは至誠館大学の学生に対する企業説明会はあるのでしょうか。

⇒事務局回答

至誠館大学にもご案内を差し上げておりますが、至誠館大学の学生が参加されたことはありません。県内の大学や、県外の大学で萩に仕事を考えておられるような方が複数名参加されたことはあります。

- 萩テレワークライフマッチング事業に関して、テレワークはどこでも仕事ができるのが1つのメリットだと思います。萩市でテレワークをしたいと思えるような萩市の魅力を示していかないといけないのかなと思います。それが、景観なのか、食事なのか、住みやすさなのか、いずれにしてもそういったところをしっかりと示していくことで、萩でテレワークしたいと思えるような形に持っていくことができるのではと思います。

⇒事務局回答

今年度から萩市は日本ワーケーション協会という組織に登録いたしました。萩市の魅力を知ってもらい、萩で働きながらテレワークができることを皆さんに知ってもらいたいと考えています。また、萩市の移住関連情報のサイト「スマウト」を通じてPRに努めています。

【その他】

- 田舎で働くことが損になるように思ってしまう人が非常に多いので、自分が働いているところ、住んでいるところが損にならないような考え方を身につける必要性があるのだろーと思います。今のビジョンだとか、概念みたいなのをしっかりと共有していただいて、これからの事業を組み立てていければと思います。
- ふるさと納税に力を入れてやっていくべきだと思います。萩市にも企業にも収入が入ってくることで、メリットが大きいので、力を入れるべきではないかと思います。

② 基本方針Ⅶ 付加価値創出の源泉となる人材力を強化する

- 全体的に、様々な効果的な事業をされていらっしゃるという印象です。個別の事業でもすごくいい取り組みをたくさんしていると感じます。
- 対処療法でいいのか、原因療法がいいのかという議論もあると思います。兵庫県の豊岡市の取組で、「豊岡メソッド」という本が出版されていますが、豊岡市のジェンダーギャップ解消に、市を挙げて取り組んだ経験など、参考になることもたくさんあります。対処療法ではなくて、そうした根本的なところ何かやらないと、人口減少への対応は難しいのかなと感じます。
- 「企業は人なり」と聞きます。人材、組織というところへのしっかりとした投資が必要

だと思えます。

- 事業は本当に一生懸命にやってらっしゃるという印象です。これが実利を伴っているともっといい評価になるのではと感じました。
- 行政の事業費について、職員の人件費も加味することによって労働生産性というものが可視化されるのではないかと思います。

【高校魅力化支援事業について】

- 高校魅力化支援事業については、魅力的なプロジェクトの紹介がありましたが、課題として人数がなかなか集まらないというところがあり、何か少し難しいというか、堅苦しい感じを受けたという印象もあります。もう少し遊び心や楽しいテーマ等を選定すると、もっと興味が持たれる方もいらっしゃるのかなと感じました。

⇒事務局回答

高校魅力化支援事業に関しまして、今のテーマが少し堅いという認識はしております。一方、個人で行うマイプロジェクトというのがあり、それに関しては、過去の例で、好きな押しのアイドルの探究や、自身が好きなスポーツ、魚に関するなどをなど、個人的に楽しいことをテーマにし、高校生が興味あることをテーマに探究を続けています。

- 「はぎたん」への参加者を増やすために、いろいろなところで周知されていると思いますが、高校生対象に「はぎたんは、こういうことをやっているよ」というワークショップを開いてみるのも良いのではと思えます。

⇒事務局回答

参加した高校生からは、「この探究部に参加してよかった」という、肯定的な意見が大半です。入部している高校生と協力して増やしていこうと考えています。

- 探究部はすごくいいなあと思っています。現在、大学進学なども探究の成果を用いた A0 の関係の話があると思いますので、そうした探究部での実績が A0 などの話に紐付けるような流れがつかられないかなと思います。

⇒事務局回答

メリットの明確化が重要だと思っております、そうした A0 の実績として動機づけることも一つの手段と考えています。

【IT・金融リテラシーの向上について】

- 萩グローバル IT 人材確保・育成事業は、すごく地元の高校生の雇用に貢献していらっしゃるという印象を受けております。地元で採用になられた方の男女比率は、どうなっていますでしょうか。

⇒事務局回答

これまでに 9 社の IT 企業を誘致しております。主に高校生の新卒の採用を中心に若い方を採用されている企業が、9 社のうちの 5 社ほどあります。その 5 社の方々の印象としましては、男女比率が半分半分ぐらいのイメージと考えております。

- 市内 IT 企業でも、萩商工高等学校さんから採用した学生さんもたくさんいらっしゃいます。本社では男女比率はそんなに差はないのですけれども、萩オフィスでいうと、

男性の方が多めかなという状態です。私たちとしても、ぜひ女性の方に来ていただきたいと思いつつ、女性の方にどういうふうに興味を持って頂けるのかというところが課題とっております。

- 萩商工の生徒に、「皆さんはITリテラシーが高いと思いますか」と質問をしたことがあります。アメリカ、中国、韓国と、日本の高校生を比較しまして、日本の高校生は、比較的ITリテラシーがかなり高い方であるということが分かりました。これは、国立青少年教育振興機構という団体がきちんと取ったデータが出ており、日本の高校生は比較的リテラシーが高い状態にあります。
- 今の学生の現状を認識しながら、学習カリキュラムを設計していくのがよいのではと思います。セミナーや、カリキュラムで、私たちIT企業が、ぜひ今後ご協力できればと思っております。
- 高校生をはじめ、ITリテラシーや金融リテラシーを高めることは、今の物価高や世界情勢を考えると、非常に大事だと思います。企業の一人一人が意識改革を持って変えることが大事なのではと思います。
- 金融リテラシーは、非常に重要だと思っております。やはり今の人件費の高騰や、物価高騰等で企業の収益が圧迫をしております。そうした中で法律上、最低賃金が決まってそれに合わせていくと、売り上げが伸びない、利益も出ないということがあります。その中でどうされるかという、時間を削られる。時間を削れば今度は、生産性が下がる。そういった矛盾があります。そうした中で、働く者としてどういった仕組みがあるか、例えば税金、社会保険、そのあたりの知識をしっかりとって、これからの人材を考える際にも、親がそういったことを教えられるかということも、非常に重要なのでは、と思います。
- 吉田松陰先生は志教育を教えた人です。まず志をしっかり立ててやっていくこと。この松陰先生をもっと活用としていこうという考え方が萩市にとっていいことだと思います。

【看護人材の育成について】

- やはり萩が住みやすい、医療・教育が充実している、ここが一番大事な柱だと思います。看護師が足りないという話はよく聞いておりますので、需要があるのであれば、もう少し予算をつけて、募集の人数をもっと増やして、萩で働かれる方を育てていくということも必要なのかなと思います。

⇒事務局回答

この事業は令和6年度から始めた事業になり、来年度が3年目ということになりますので、3年後の事業評価を行い、今後また拡充するかどうかというところも検討させていただきます。

【地域おこし協力隊について】

- 地域おこし協力隊の設置事業について、萩市内定着率が68.1%がと高いことはすごく評価できると思います。今後、さらに定着率を上げていく上で、その地域に馴染むことが大事だと思いますが、そのようないい流れを作るにはどうしたらいいのでしょうか。

⇒事務局回答

過去、地域で馴染めずに、途中で辞められて都市部に帰られるケースが多くございました。今は団体制度を設けていまして、各地域の地域おこし協力隊の方をサポートする団体体制をとっております。また、OBの方も数多く定着されておられますので、そういった方もサポート的に入っていただきながら、地域になじめるよう、その地域全体でサポートするような仕組みをとっています。